

# 研究紹介

## たばこ依存から見えてくる反応性の個人差

小箱から一本取り出し、カチツと火をつけ一服。この行動を一日二十回、一日も休むことなく何十年続けています、という愛煙家の方、結構いらつしやいます。仕事は休みが必要で、お酒は時々休肝日を設けているけど、タバコは体調悪くても、寒い外に出ても吸いたい。お金もかかるし、体によくない、とわかっていてもやはり吸いたい。これが依存なのです。食べるとか、眠るとか、生きていくために不可欠な行動以外で、これほど律儀に続けることが出来る行動は他にありませんか？

一方、格好よくタバコを吸おうにも、一本のタバコで気分が悪くなるような、喫煙と無縁の人も多くいます。ヘビースモーカーで元気に長生きする人もいれば、若くて癌等で亡くなる人がいます。この個人差は一体何なのでしょう。生まれつきの体質と生活習慣が個人差に大きく関わっているとされていますが、詳細は説明されていません。理性ある人間の行動パターンを大

きく変えてしまうタバコ依存の背景と飲酒・食習慣・コーヒー・運動・ストレス等の生活習慣は複雑にからまっています。これらの要因と疾病・個人の反応性に関して、体内動態や免疫系遺伝素因等を総合的に解析することにより研究を進めています。

一吸いに至福の喜びの愛煙家から、その喜びを取り上げるのは酷な気もしますが、アメリカでは家でのタバコで解雇する企業が出てくるほど厳しい時代になってきました。タバコをやめたいと思われている方は、タバコ依存治療のための専門外来を受診されることをお勧めします。島根大学病院の「禁煙外来」は、医学的根拠に基づいて「確実」「楽しく」「薬」に卒業できるような週末曜日午後、完全予約制です。

〒085-3120 島根大学  
 (医学部) 法医学講座 稗田洋子



担当の磯部先生(左)と筆者

## 教育と2つの研究

島根大学に二〇〇四年四月に日本型の法科大学院(ロースクール)が誕生した。アメリカ合衆国のロースクールをモデルにした法曹(弁護士、裁判官、検察官)を養成する教育機関である。正式名称は、「大学院法務研究科法曹養成専攻」と大変に堅苦しいが、通称「山陰法科大学院」と、文字通り、島根県、鳥取県など山陰地域に深く根ざした法曹養成を謳っている。法科大学院は、法曹という高度に専門的な実務の職業人を養成する博士課程であり、教育機関としての役割は大きい。

いったん法科大学院の教員として加われば、自分の専門研究はできなくなるのではないのか。こんな素朴な疑問が、法科大学院に加わろうとした、ほとんどの教員の脳裏をかすめてきた。研究の蓄積や裏づけのない教育は考えられないというのが正論ではあるが、それはいつのことかというのが本音であった。アメリカのロースクールの教員が以下で見える多面的な「研究」をどうやって実現できているのか、とても信じられないというのが実情なのである。

現在、研究の課題は試行錯誤が続いている。そして、これまでの研究の概念を大きく変える事態が生まれている。これまでの教員の研究は、社会科学分野である法学の専門分野が主たるものであり、社会と法、法規範のあり方を探求するものであった。これに新たに加わった法科大学院の教員の研



右「改正刑法仮案成立過程の研究」  
 左「疫学的因果関係の研究」

究対象は、法科大学院生に対する「教育方法」なのである。法曹養成機関において国民の社会生活上の医師として「専門的資質・能力の修得と、かけがえない人生を生きる人々の喜びや悲しみに対して深く共感しうる豊かな人間性の涵養、向上を図る」(司法制度改革審・意見書)ことを教育場面ににおいてどのように実現するのかについて実践的な研究をしようというものである。アメリカでは、このロースクールにおける教育に関する全国学会も活動が盛んで、学会誌もある。

こんな創設期の二〇〇四年にも、従来の専門研究の成果は、本研究科教授の二つの著書、林弘正『改正刑法仮案成立過程の研究』(成文堂)、山口龍之『疫学的因果関係の研究』(信山社)として公刊された。

今後、教育方法の「研究」の成果を紹介できる日を楽しみにしている。教育と研究は、今後、きっと教育と二つの研究として発展するものと期待している。これは法科大学院の教員だけに巡ってきた問題でもないようである。

(法務研究科 三宅孝之)